

## 6. 絹西小・菅生小地域

### (1) 地域の将来像のイメージ

絹西小・菅生小地域の将来像である「自然環境、歴史・文化資源を生かした産業・交流ゾーン」として、次のような地域の姿を目指します。

#### 本計画が目指す地域の姿

- 圏央道(仮称)水海道 IC や鬼怒川ふれあい道路等により、産業ゾーンとしての魅力が向上し、坂手工業団地を中心に企業立地が進みます。
- 地域の自然や歴史・文化に親しむ場として、菅生沼・飯沼川や鬼怒川の水辺空間の活用が図られるとともに、あすなろの里やきぬ総合公園のレクリエーション拠点としての充実が進んでいます。

### (2) 地域づくりの目標を具体化するための施策

#### ① 産業機能の集積を推進する操業環境の維持・向上

- 坂手工業団地については、建物用途の明確化を図るため地区計画の決定を進めるとともに、鬼怒川ふれあい道路沿道部での新たな産業系機能の誘導を進めます。

#### ② 地域資源の活用による魅力向上

- あすなろの里については、都市と農村の交流の場等として、既存施設の充実を図るとともに自然環境の保全・周辺資源との連携を進めます。
- きぬ総合公園については、広域的なレクリエーション拠点として、施設の維持・管理に努めます。
- 鬼怒川・飯沼川沿岸については、治水対策とともに散策空間等としての河川沿岸空間活用を進めるため、自転車・歩行者の利便性確保や景観保全のための施策を進めます。

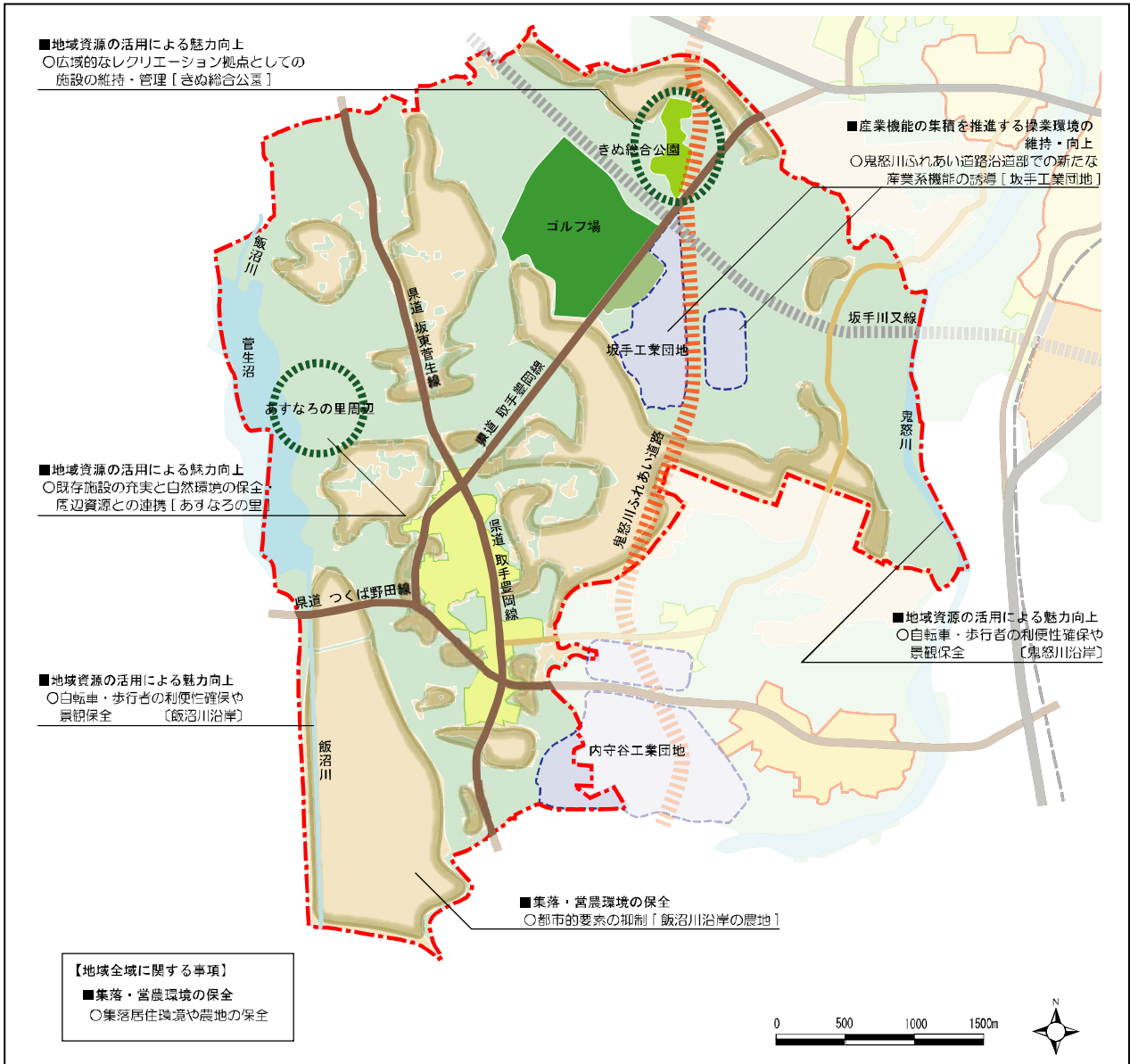
#### ③ 集落・営農環境の保全

- 集落や農地については、これらを一体的な営農空間として捉え、農業施策との調整を図りながら、集落居住環境や農地の保全に必要な施策を展開します。
- 飯沼川沿岸の農地については、その集団性の維持を図るため都市的要素の抑制に努めます。

### (3) 地域づくりを実現するための取り組み

- 秩序ある土地利用を進めるため、行政だけでなく住民や事業者の責務の明確化を進めます。
- 鬼怒川西部の南北軸として、鬼怒川ふれあい道路の整備を進めます。

図一 絹西小・菅生小地域の将来像



【凡例】

	交流拠点		営農ゾーン(農用地区域)		国道
	産業誘導ゾーン(地区計画)		自然的土地利用ゾーン		県道
	集落ゾーン		構想道路		市道